



イエス様は大切な教えを皆に話す時、腰を下ろされて、話し始められます。ペテロの召命の時もそうでした。イエス様はペテロに命じて、船を浅瀬まで出させました。そしてその船から岸にいる群衆たちに向かって教え始められたのです。その時、腰を下ろして教え始められたと聖書に記されています（ルカ 5:3）。つまりペテロは最初、そのイエス様の話される様子を同じ船から聞いていた群衆の一人にすぎなかったのです。そこからペテロはイエス様の言葉に従って沖へ漕ぎだし、あの有名な大漁の奇跡を目の当たりにしたのです。そして彼は一切を捨ててイエス様に従うようになりました。それはイエス様が語られる言葉が自分に対して言われている言葉だとわかったからです。そのイエス様の言葉とは、「こわがらなくともよい。これから後、あなたは人間をとるようになるのです。」ルカ 5:10

このペトロの召命を通じて、そして礼拝のメッセージを通じて私達が学ばなければならぬ事はまずは腰を下ろして主に尋ねるという事です。それはいつだって御言葉は皆に向けられているものでもあり、私個人に語られている言葉だからです。それが自分にとってどのような意味があり、その言葉をどのように日々の生活で適応するべきなのかいつも座って聞き続ける必要があります。細かい事は紙面の都合で書けないのですが、改めて自分自身を見つめる時、自分が変えられることを願うよりも、人を変えようとしている節がある事に気づかされました。かなり自分をさらけ出して表現すると「自分はもう聖書の教えは（完全だから）聞く必要が無く、皆さんまず聞きなさい」という姿勢です。それは自分の大部分を占めているものではない（信じたい）のですが、時折顔を覗かせます。まずは自分に語られる

言葉に耳を傾け続ける一年でありたいと切に願います。

ペテロも傲慢に陥り、大きな失敗と挫折を経験しました。慕っていたイエス様を裏切ってしまったのです。でもイエス様はペテロの為に腰を据えて祈り続けました。彼が立ち直って兄弟たちを励ます器になる事を信じ切っていたからです。ペテロはその後、力ある説教者として変えられました。しかし彼が持つ力とは聖霊の力です。弱きものを助け、痛みを持つ人に対して寄り添う力、そして魂の救いの為に遣わされた地を歩き抜く力です。それはまず自分に対してそれらの事をしてくれたイエス様の愛によって得た力です。時折逆立ちしても祈りたくない時があります。又はこの人の為にどうあっても祈れないという時があります。だからこそ弱い私達はイエス様の愛が必要なのです。そして聖霊の助けが必要なのです。共にイエス様により頼み、今より少しでも前進する者へと変えられて行きましょう。この一年、私と皆さんと一緒にになって、祈りの一年になる事を願います。

